



上●重要文化財 唐物肩衝茶入 銘 油屋 南宋時代(13世紀) 右下●油屋茶入の笈櫃と付属品  
下●雲州不昧公大崎別業真景(部分) 明治29年(1896)写 国立国会図書館蔵 ※展示期間 4/12~5/11

# 花庭茶と 庭園文化



即翁と、  
二万坪松平不昧  
夢の茶苑

2025  
4/12(土) 5/11(日)  
5/14(水) 6/15(日)

前期 4月12日(土) - 5月11日(日)  
後期 5月14日(水) - 6月15日(日)  
開館時間 午前10時~午後5時(入館は午後4時30分まで)  
休館日 月曜日(ただし5月5日(月・祝)は開館) 5月7日(水)、5月13日(火)  
入館料 オンライン日時指定券: 一般1,300円/学生900円  
※当日券(一般1,500円/学生1,000円)も  
当館受付で販売しております。  
※障がい者手帳提示者とその介護者各1名は無料。  
中学生以下は無料(保護者の同伴が必要)  
スムーズなご入館と快適な鑑賞のために、  
当館ホームページから事前にオンラインでの  
チケットご購入をおすすめします。  
<https://www.hatakeyama-museum.org/>  
お問合せ 050-5541-8600 (ハローダイヤル)

EBARA HATAKEYAMA  
MUSEUM OF ART  
荏原 畠山美術館



## 荏原 畠山美術館

株式会社荏原製作所の創業者・畠山一清(一八八一~一九七二)のコレクションを公開するために一九六四年に畠山記念館として開館。二〇一九年より改築工事のため長期休館中でしたが、開館六〇周年を迎えた二〇二四年十月に開館の運びとなり、正式名称は新たに「荏原 畠山美術館」としました。これまでの活動をさらに充実させ、より多くの方に楽しんでいただける美術館を目指してまいります。

## 畠山即翁と 與衆愛玩

畠山一清は、実業家でありながら、「即翁」と号して、能楽や茶の湯をたしなむ数寄者でもあり、茶道具を中心に、五十年をかけて美術品の蒐集に励みました。即翁の愛蔵印に刻まれている「與衆愛玩」という言葉には、「自らのコレクションを独占するのではなく、多くの人と共に楽しむ」という想いが込められています。当館は即翁のこの精神を受け継ぎ美術館活動を進めています。

### 関連イベント

#### 事前申込制・有料

※詳細は当館ホームページをご確認の上、「オンラインチケット」からお申し込みください(先着順)。4月8日(火)13時より販売開始。いずれも別途入館料が必要です。

#### 茶室公開

「近代の数寄者 畠山即翁の茶室で一服」

港区指定文化財で通常非公開の茶室「明月軒」(広間)でお抹茶をお出します。一服していただいたあと、当館の学芸員が広間と「翠庵」(小間)の茶室のご案内と解説をいたします。

定員:各席15名 | 呈茶代800円(干菓子付き) | 所要時間は約45分

日時:5月4日(日・祝)・5日(月・祝)

- ・第1席:10時30分~11時15分 | ・第4席:13時30分~14時15分
- ・第2席:11時30分~12時15分 | ・第5席:14時30分~15時15分
- ・第3席:12時30分~13時15分 | ・第6席:15時30分~16時15分

#### 落語会

「井戸の茶碗」を聴く会 | 三遊亭遊雀氏(真打)ほか

細川井戸(当館所蔵)がモデルになったといわれる古典落語を聴いたあとは、不昧が活躍した時期の江戸文化と不昧ゆかりの落語について学芸員が解説ご案内します。

日時:5月31日(土) | 午前の部:11時~12時15分 | 午後の部:13時~14時15分

会場:新館1階多目的室 | 定員:各回70名 | 参加費:1,000円

#### これからの展覧会

まだまだ見えます—新生 荏原 畠山美術館  
中国観賞陶器、青銅器から新収集作品まで

2025年7月26日(土)—9月15日(月・祝)

スムーズなご入館と快適な鑑賞のために、当館ホームページから事前にオンラインでのご購入をおすすめします。

オンライン日時指定券: 一般1,300円/学生900円

(4月8日(火)13時より販売を開始する予定です。)

※当日券(一般1,500円/学生1,000円)も販売しております。(オンラインにてご購入の方を優先してご案内いたします。当日券の方は少々お待ちいただくことがあります。)\*障がい者手帳提示者とその介護者各1名は無料。中学生以下は無料(保護者の同伴が必要)

■お知らせ ■当日券の購入およびショップ・カフェでのお支払いは「キャッシュレス決済のみ」となります。ご利用可能な決済方法は、クレジットカード・交通系ICカード・電子マネー・QRコードとなります。

■展覧会・チケットなどの情報はこちら▶



<https://www.hatakeyama-museum.org/>

お問合せ:050-5541-8600 [ハローダイヤル]

※SNSでも最新情報配信中

公益財団法人 荏原 畠山記念文化財団

〒108-0071 東京都港区白金台2-20-12

#### 図録付き鑑賞会

鑑賞会と図録がセットになった特別企画です。本展の注目ポイントを分かりやすくスライドとともにご案内します。

第1回目:4月19日(土) 講師:岡部昌幸(当館館長)

第2回目:6月7日(土) 講師:水田至摩子(当館学芸課長)

各日とも 10時30分~11時15分

会場:新館1階多目的室 | 定員:各回70名 | 参加費:3,000円

※希望のミュージアムカフェがオープンします!

#### ミュージアムショップ 茶籠

美術館の開館日に合わせて営業しております。



\*ご利用は美術館入館者に限らせていただきます。

#### 猿町カフェ

当館のある地が、かつて白金猿町と呼ばれていたことが店名「猿町カフェ」の由来です。



#### [アクセス]

■都営浅草線「高輪台」駅下車A2出口左手交番を左折徒歩5分

■東京メトロ南北線・都営三田線「白金台」駅下車

1番出口右手コンビニを右折徒歩10分

※一般来館者専用の駐車(輪)場はございません。公共交通機関をご利用ください。

なお車いす用駐車場(1台)は、事前に予約された方の専用駐車場です。

予約方法は当館のウェブサイトでご確認ください。



EBARA HATAKEYAMA  
MUSEUM OF ART

荏原 畠山美術館

# 花ひらく 茶と庭園文化

即翁と、二万坪松平不味  
夢の茶苑



大名茶人として知られる松江藩七代藩主・松平治郷(号・不味、一七五二〜一八一八)は、財政の緊迫した松江藩を藩政改革で立て直し、その余力で茶器の大蒐集をおこなっていました。若き日に茶の湯に対する批判ももたらしていた不味は、既成の茶の湯をこえて新しい茶の湯をきりひらくため、独自の茶の湯道具の研究へと進みます。こうした名物研究を背景に不味は確かな鑑識眼で名品を数多く蒐集し、約九百点におよぶ茶道具を集めました。そのなかには今日、国宝や重要文化財に指定されているものも多くみられます。現代に通じる美の基準を定めた不味が所持した茶道具は、松平家の蔵帳といえる『雲州蔵帳』に詳細に記され、後年の蒐集家たちに尊重、高く評価されました。

不味はまた、いくつもの茶室を建て茶会を催しました。とくに隠居後を過ごした品川大崎の松江藩下屋敷は、十一の茶室が点在する大茶苑でした。東都随一の名園と評判を呼びましたが、黒船来航の際に品川沖警備の軍用地になり、取り壊されています。その後八十年を経た昭和十二年(一九三七)に島山一清(号・即翁、一八八一〜一九七二)が白金猿町(現・白金台二丁目)の土地を入手して造園したのが当美術館のある地で、不味の「大崎庭苑」の近隣に位置しています。庭園の中に茶室を設けて夢の茶苑をつくりあげた不味の茶の湯は、近代の財界人たちの数寄者に大きな影響を与えました。不味は庭園づくりにおいても偉大な先駆者だったといえるでしょう。本展では、不味が、そして雲州蔵帳の名器を多数所持した近代最後の数寄者島山即翁が描いた夢に迫ります。

茶入の産地や時代を分類。  
保存への配慮も記す  
不味六十一歳渾身の書。

和漢茶壺鑒定 | 松平不味筆  
江戸時代 | 文化8年(1811)



唐物籐組茶籠と茶道具一式  
中国・清時代 | 18〜19世紀ほか

不味好みの茶籠。  
お点前に必要な  
茶道具一式を入れて  
持ち運ぶ。



不味公大崎別業園并亭樹明細図 | 明治時代 | 一卷(部分)  
国立国会図書館蔵 | ※展示期間5/14〜6/15

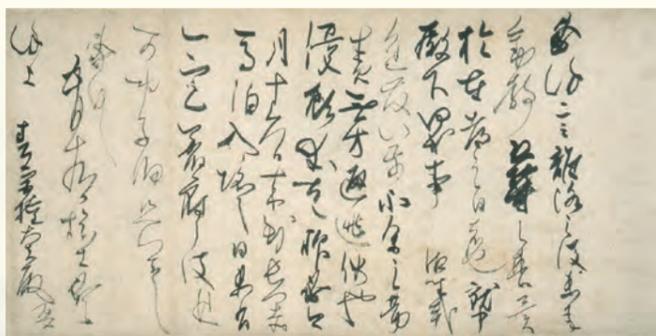


大正六年(一九一七)  
不味百年忌の  
出品目録に記載。  
原図は松平定信が  
絵師の谷文晁に  
描かせたと  
伝わる絵巻。

雲州不味公大崎別業真景 | 一卷(部分)  
明治29年(1896)写 | 国立国会図書館蔵 ※展示期間4/12〜5/11



自由奔放な筆さばき。  
平安時代の三跡の一人が  
書いた国宝の詫び状。



藤原佐理筆  
離洛帖 | 平安時代 | 正暦2年(991)  
国宝

辻与次郎作  
東陽坊釜 | 桃山時代 | 16世紀



利休の孫の箱書も残る  
天下一と称された  
釜師の作。  
専用の土風炉添う。

箱を埋め  
尽くす蝶と  
牡丹、鎌倉期を  
代表する漆芸の  
技と美の結晶。  
金具にも注目。

蝶螺細時絵手箱  
鎌倉時代 | 13世紀  
※展示期間4/12〜5/11

天下三井戸のひとつ  
戦国武将憧れの茶碗。  
枇杷色の釉、胴のふくらみや  
高い高台などが  
相まって優美で  
風格のある  
姿をみせる。



井戸茶碗 | 銘 細川  
重要文化財 | 朝鮮・朝鮮時代 | 16世紀



唐物肩衝茶入 | 銘 油屋  
重要文化財 | 中国・南宋時代 | 13世紀

豊臣秀吉、  
松平不味が所持した  
唐物茶入の筆頭格。  
不味は参勤交代時に  
この茶入と道中を  
ともにするほど  
愛蔵した。

## 常設展示

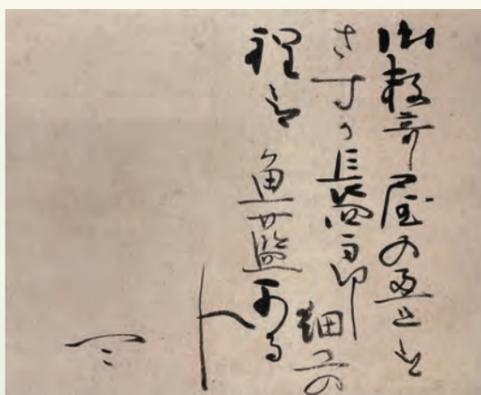
本館ロビーにおいて、  
近代彫刻界の巨匠、  
平櫛田中(1872〜1979)作  
の「島山即翁寿像」を  
ご覧いただけます。



青磁淨牡丹文瓢形花入  
中国・南宋〜元時代 | 14世紀

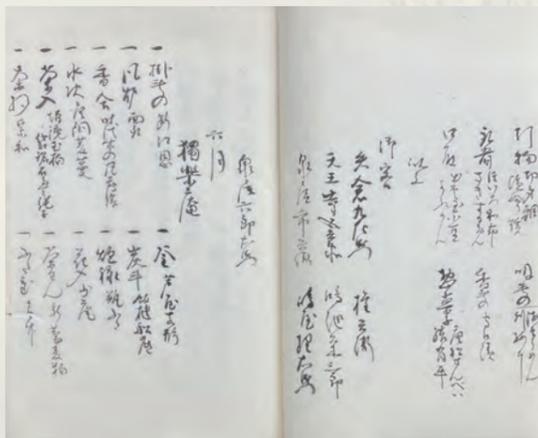
文様を貼り付けて立体感をみせる  
貼花の技法を用いた大振りな瓢形の青磁花入。  
島山即翁が初めて大師会茶会の茶席を  
担当した際に用いられた紀州徳川家伝来品。

大崎茶苑等の数寄屋昼師を務めた  
昼師宗四郎に不味が書き与えた。  
この狂歌を得たために  
店が繁盛したと伝えられる。



狂歌 | 松平不味筆  
港区指定文化財 | 江戸時代 | 一幅 | 港区立郷土歴史館蔵

不味公大崎茶屋懐石記 | 江戸時代 | 1冊  
文化3〜14年(1806〜1817)



不味隠居後の文化三年から十四年の間、  
不味が大崎下屋敷で催した茶会の記録。  
茶室・道具・客の名等が記されている。